

より安全な場所を求めて

国外へ逃れる選択肢を選んだ人の多くは、ヨーロッパを目指します。一体どれくらいの距離を移動することになるのか、どのくらい時間がかかるのか、想像がつかない中、最低限の生活ができる場所を目指して国外へ避難する決断をします。



3人の子どもたちを連れて、シリアから逃れた女性
レバノン・トリポリ



シリアからトルコに逃れた人々
トルコ・サンリウファ



支援物資を受け取るために長い列に並ぶ人々
トルコ・サンリウファ



トルコからギリシャのレスボス島に到着した人々
ギリシャ・レスボス島



地中海を渡ろうとして亡くなった人々の遺体を引き上げるリビア赤新月社
リビア・ザーウイア



イラクから逃れ、難民認定されるのを待つ女の子
ギリシャ・コス



難民キャンプで暮らす親子
ギリシャ・イドメニ難民キャンプ



難民キャンプで家族の再会支援を行う赤十字
マケドニア・ゲブゲリヤ



両親と12人の親戚と一緒にスウェーデンを目指す兄妹
マケドニア・ゲブゲリヤ



長い避難生活で重い病気にかかった男の子
セルビア・プレシェヴォ



クロアチアまで逃れてきた子どもと遊ぶクロアチア赤十字社のスタッフ
クロアチア・スラヴォンスキプロド

変わり果てた街

住み慣れた街へ帰ることを望む人々にとって、家に帰ることは自分のアイデンティティーを回復する方法でもあります。しかし、病院や水道などのインフラが破壊されていることも多く、日常生活を取り戻すのは容易ではありません。



激しく銃撃された家に戻った夫婦
イラク・モスル



家に戻り、変わり果てた街を目の当たりにした兄弟
イラク・モスル



赤十字の少額融資で店を再開した男性
シリア・ホムス

わたしの街を返して

今日の都市型戦争は、殺害や破壊といった目に見える惨劇を生むだけでなく、教育機会を奪われた世代、精神的トラウマ、避難生活の長期化など、目に見えない傷あとを社会全体に残します。



家族と家を選んだ女の子
イエメン・サヌア



家族と家を選んだ男の子
イエメン・サヌア



世界を知る写真展 わたしの街を返して

シリア、イラク、イエメン—
中東3カ国の市街地で紛争により奪われた「あたりまえの生活」

赤十字は、戦闘に直接参加しない一般市民の保護を定めた国際人道法の普及を重要な使命の一つとしています。私たちは、市街地での戦闘で一般市民が犠牲になっている状況を見過ごすことはできません。そのため、国際人道法の尊重と遵守をすべての紛争当事者に呼びかけるとともに、住み慣れた家を追われて国内および国外で避難生活を強いられている人たち、避難したくてもできない人たち、かつて住んでいた場所に戻った人たち、避難民を受け入れているコミュニティーなど、さまざまな状況に置かれている人々を引き続き支援します。

本パンフレットに掲載されている写真のコピーライトは、ICRC もしくは IFRC に帰属します。
(ただし、紛争前のシリア、イラク、イエメンの写真を除く)

主催：日本赤十字社、赤十字国際委員会、キヤノン株式会社 協賛：神奈川県日赤紺綬有功会



シリア、イラク、イエメン

かつて、これらの国々には家が立ち並び、ビジネスの中心街として栄える街がありました。しかし近年、人口が密集する都市部で戦闘が繰り返られるようになり、戦闘に参加しない市民さえも巻き込まれています。2010年から2015年にかけて、世界の紛争による死傷者の約半数がこの3カ国に集中しています。



イラクのモスルにある駅。イラク政府軍と武装勢力が戦闘を繰り返す中、真夜中に街から逃げ出す市民
イラク・モスル / 2017年3月 / André Liohn / ICRC

崩れ去る“あたりまえの生活”

今日の市街地における戦闘の特徴の一つは、水や電気、病院や学校などの民間インフラさえも攻撃の対象となることです。家を攻撃され、大切な人の命が奪われることで、これまではあたりまえだった生活が突然崩れ去ります。



家を攻撃され、息子を失った男性
シリア・アレppo



爆撃により崩壊し、静寂に包まれた学校
シリア・ホムス



孫を含め家族4人が犠牲になったがれきの側に立つ男性
シリア・アレppo



破壊されたアレppoの国立病院
シリア・アレppo



幼い娘を抱きかかえる、夫を失ったタイズの住民
イエメン



食料や生活必需品を得るために、険しい山を越える人々
イエメン・タイズ

逃げることもできない

中東で今日繰り返られる戦闘は、古代の市街戦でもみられたように、“包囲”という行為によって特徴づけられます。人道支援も妨害され、住民の苦しみは尋常ではありません。



支援物資を届けるシリア・アラブ赤新月社
シリア・フア、ケフラヤ



支援物資を受け取り、涙する女性
シリア・マダヤ



雪の降る中、患者を救急車へ運ぶシリア・アラブ赤新月社
シリア・ホムス



お年寄りを助けるシリア・アラブ赤新月社
シリア・ダマスカス

家を追われて

生き延びるために、逃げることを強いられることもあります。避難した場所が安全とは限らず、避難先からまた別の街へ、何度も何度も逃げ続けなければならない場合もあります。



難民キャンプへ向かう家族
イラク・ゴジャリ



戦闘が近くまで迫り、逃げる人々
イラク・モスル

国内をさまよう

避難するにしても、住民が避難できる安全なルートはごくわずかです。また、避難先が安全であるという保障はありません。



難民キャンプに到着した家族
イラク・ハマム アリル難民キャンプ



避難先で食料を受け取る人々
イラク・ハマム アリル難民キャンプ



11家族が使用する避難場所のキッチン
イラク・ドホーク



安全な水を手に入れた人々
イエメン・サヌア



コレラの症状がある生後2カ月の娘を病院に連れてきた母親
イエメン・サヌア



イエメン赤新月社のボランティアから手洗いの方法を教わる子どもたち
イエメン・サヌア



家を攻撃され、一瞬にして夫と息子を失った女性
イエメン・サヌア

紛争前と紛争後のシリア、イラク、イエメン



シリア北部の都市アレppo
©Jens Benninghofen/Alamy Stock Photo



激しい戦闘の後に到着したシリア・アラブ赤新月社の救急車



チグリス川が流れるイラクの都市モスル
©Prisma by Dukas Presseagentur GmbH/Alamy Stock Photo



モスルの路上で遊ぶ子供たち



イエメンの都市タイズにあるアル・アシュラフィヤ・モスク
©Images & Stories/Alamy Stock Photo



無数の銃弾が撃ち込まれた痕が残る車の中で遊ぶ2人の子供